



日本動物高度医療センター

事業計画及び成長可能性に関する事項

2024年6月19日

株式会社日本動物高度医療センター
(東証グロース：6039)

1. 会社概要
2. 事業概要
3. 業績・財務概要
4. 市場環境
5. 成長戦略
6. リスク情報

1. 会社概要

2. 事業概要

3. 業績・財務概要

4. 市場環境

5. 成長戦略

6. リスク情報

会社概要

会社名	株式会社 日本動物高度医療センター Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
所在地	神奈川県川崎市高津区久地2-5-8
主な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻の巣 1-602 大阪病院 : 大阪府箕面市船場西 3-14-7
設立年月日	2005年9月26日
資本金	801百万円（801,600,660円）（2024.5）
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	313名（非常勤29名を含む）※グループ全体（2024.5）
関連会社	株式会社 キャミック （画像診断サービスを行う動物健診センター） テルコム株式会社 （動物用酸素濃縮器等の製造・販売・貸与）



- 
- 2005年9月 株式会社日本動物高度医療センターを設立
 - 2007年6月 川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業
 - 2009年3月 「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける
 - 2011年12月 名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業
 - 2014年1月 株式会社キャミックを子会社化
 - 2015年3月 東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）
 - 2017年6月 キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業
 - 2018年1月 東京病院を東京都足立区に開業
 - 2022年2月 キャミック城北を埼玉県さいたま市南区に移転開業
 - 2022年3月 テルコム株式会社を子会社化
 - 2022年4月 東京証券取引所グロース市場に移行
 - 2023年6月 大阪病院を大阪府箕面市に開業
 - 2024年5月 大阪病院放射線治療開始

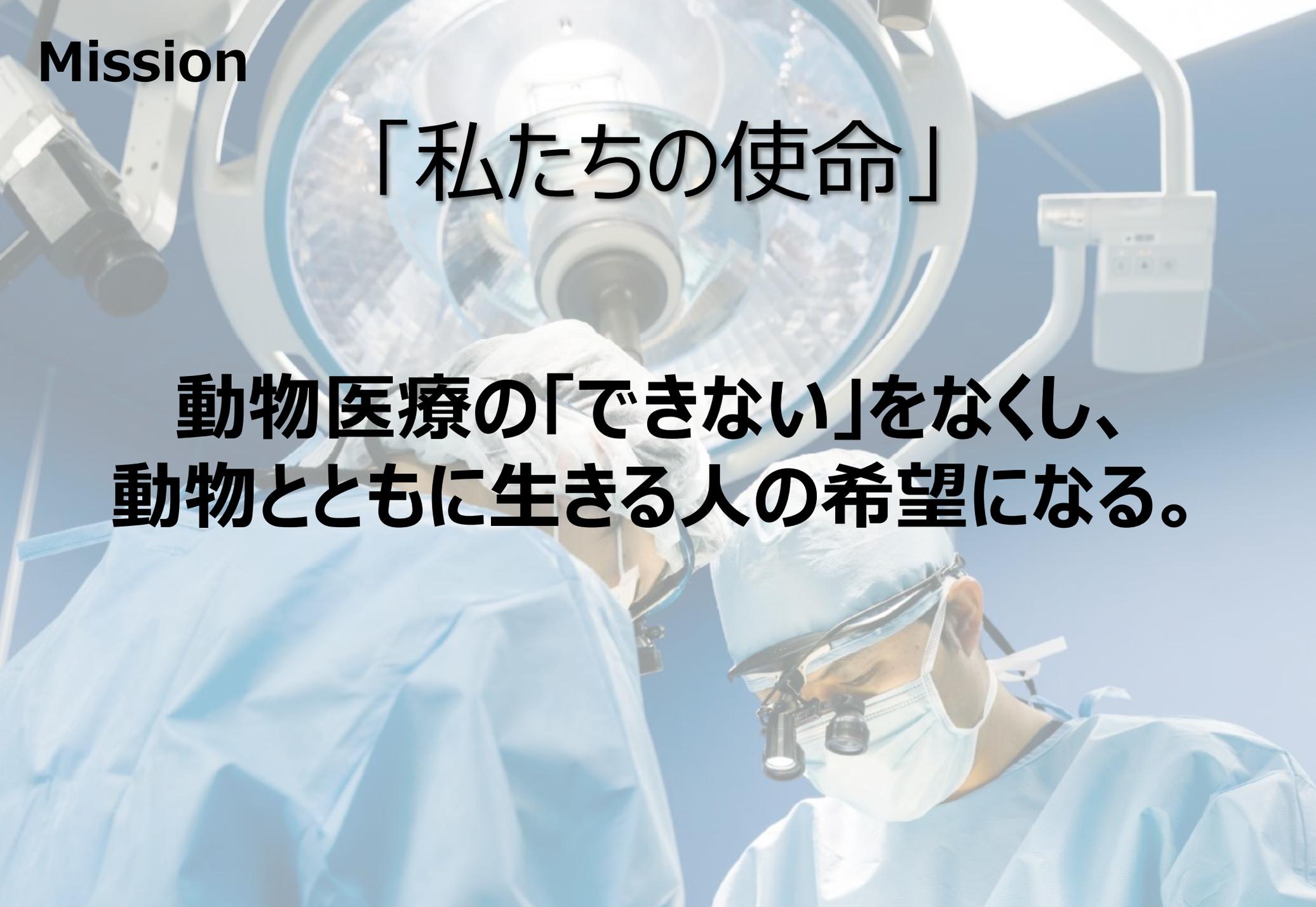
Brand Story

「私たちの想い」

どんなにカラダは小さくとも、
言葉で会話はできなくても、かけがえのない家族の一員だから。
もしケガや病気になったときは、
できる治療のすべてを受けさせてあげたい。
それが動物と人生をともにする多くの飼い主さまの願いではないでしょうか。

2005年の創業以来、JARMeCは、
人と変わらぬ最先端の医療設備や技術を追及してきました。
365日、かかりつけ医のすぐそばに控える高度医療サービスを中心に、
あらゆる場面で動物の健康を支えています。

飼い主さまの不安や期待に寄り添い、手を尽くすだけでなく、
スタッフ一人ひとりが誠心誠意、心まで尽くすこと。
ときにそれが、救えない命だったとしても、
「幸せな日々だった」と思える日が来るように。
かかりつけ医とともに、一つのチームとなって、
飼い主さまの想いに応えていきます。



Mission

「私たちの使命」

**動物医療の「できない」をなくし、
動物とともに生きる人の希望になる。**

Value

「私たちが提供する価値」

365日、かかりつけ医のすぐそばにいる高度医療チーム

専門性

臨床を中心としながらも症例研究を積極的に行い、常に技術や知識の向上に努めることでより確実性の高い医療と、幅広い選択肢を提供します。

人間味

飼い主さまが抱く不安や苦しみをできる限り軽減させ、ここに預けてよかったと思っただけのように、スタッフ一人ひとりが真心を込めた対応で寄り添います。

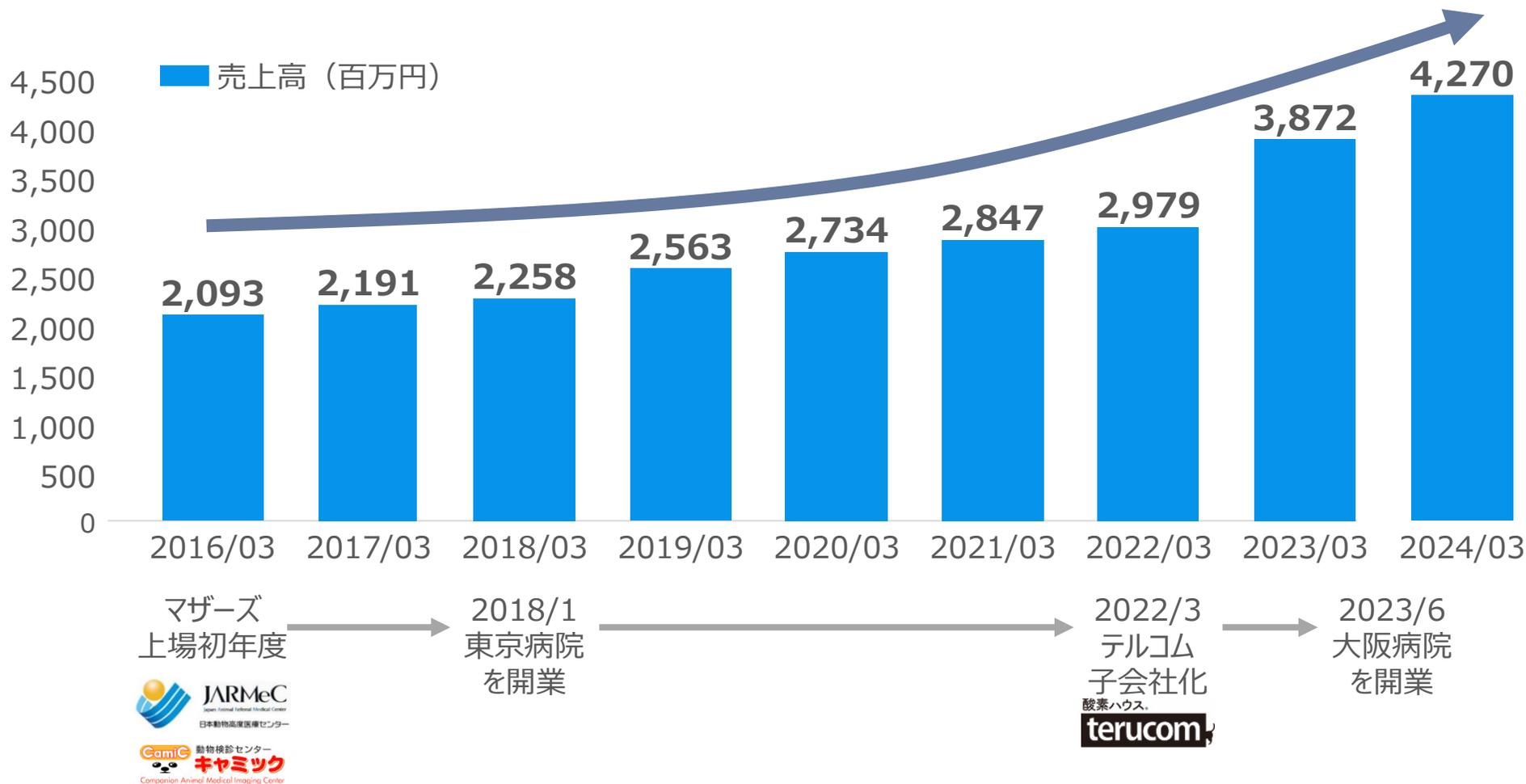
一体感

さまざまな専門性を持つ獣医師やスタッフが、かかりつけ医とひとつのチームとなって連携しながら、ともに動物の命に向き合います。

私たちは専門性と人間味を持ち、かかりつけ医と一体感あるチームとなって、安心と納得の医療を提供しつづけます。

これまでの成長過程

■ 二次診療事業のエリア拡大と、買収を通じた非連続成長により、全社としては堅調に成長



1. 会社概要
2. 事業概要
3. 業績・財務概要
4. 市場環境
5. 成長戦略
6. リスク情報

弊社が展開する事業サービス

- 一次診療では対応できない犬・猫を救う、**専門性のある二次診療が主軸**
- 加えて、**画像診断のキャミック、酸素濃縮器の貸与・販売のテルコム**、も展開

日本動物高度医療センター（二次診療）

一次診療施設からの紹介を受け、特定の専門分野を持つ獣医師が
高度な医療機器を使用して行う診療サービス

全国4つの病院



最大12の診療科



循環器科



呼吸器科



脳神経科



整形科



腫瘍科



泌尿生殖器科



消化器科



血液内科



麻酔科



集中治療科



放射線科



画像診断科

キャミック

動物の画像診断



- 当時日本初のMRI・CTによる
画像検査専門の動物健診センター
- 年間6,500件以上の検査

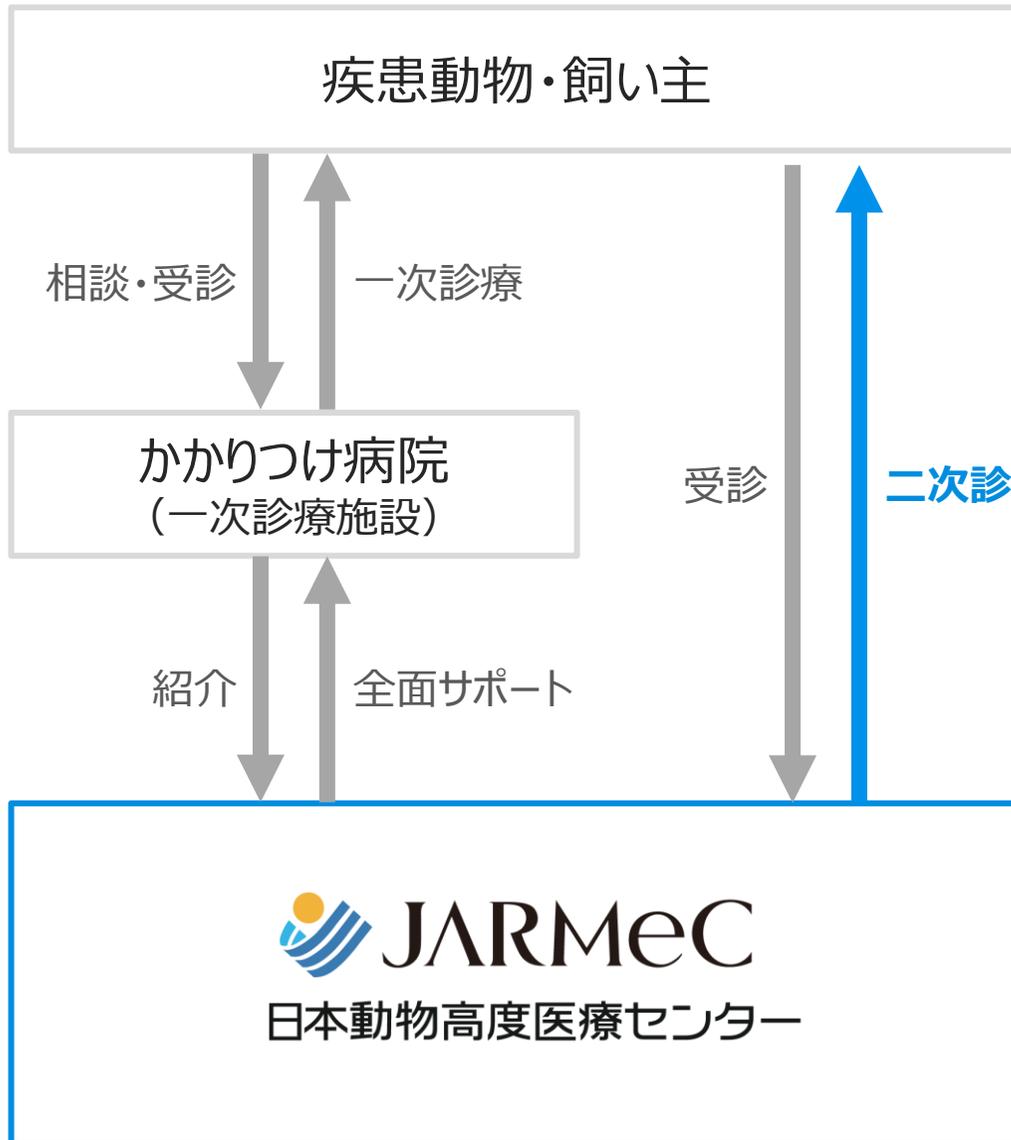
テルコム

健康管理用酸素濃縮器の貸与・販売



- 主に飼い主へのレンタル、
動物病院への販売
- 約5,500の病院で紹介

二次診療



かかりつけ病院では

- 診断が困難
- 適切な治療が困難 など

扱いきれない場合に、

かかりつけ病院からの紹介を受けて
高度な専門性と医療設備を活用し、
総合的な診断と治療を
提供するサービス

専門診療科による高度医療



循環器科



泌尿生殖器科



腫瘍科



脳神経科



整形科



呼吸器科



消化器科



集中治療科



血液内科



麻酔科



放射線科



画像診断科

- 特定の診療分野に特化し、実際の診療を行う。
- 動物の生命・生活の質に大きく関わる分野を広くカバーする診療科を揃える
- 併発する分野の疾患や鑑別が困難な症状の疾患に対して、複数の診療科で診療を実施

例) 心疾患を抱えた高齢動物の腫瘍性疾患
- 腫瘍科+循環器/呼吸器科

例) 発作症例 (てんかん発作と不整脈発作の鑑別)
- 脳神経科+循環器科

- 診断の要となる画像診断や、検査・手術に必須となる麻酔を担当し、安全かつ確実に診断できるように、サポートする。

➡ 高度かつ総合的な獣医療を提供

連携病院数

連携 **4,439** / 全国 **12,706** 病院
(2024.3時点)

甲信越 : 125

- 山梨県 : 20
- 長野県 : 62
- 新潟県 : 43

北陸 : 47

- 石川県 : 23
- 富山県 : 12
- 福井県 : 12

北海道 : 62

- 北海道 : 62

東北 : 152

- 青森県 : 12
- 岩手県 : 19
- 宮城県 : 37
- 秋田県 : 8
- 山形県 : 26
- 福島県 : 50

中国 : 61

- 岡山県 : 9
- 広島県 : 34
- 山口県 : 15
- 鳥取県 : 1
- 島根県 : 2

● JARMeC
● 大学病院

関東 : 2,646

- 東京都 : 967
- 神奈川県 : 683
- 千葉県 : 393
- 埼玉県 : 310
- 茨城県 : 124
- 栃木県 : 88
- 群馬県 : 81

九州・沖縄 : 141

- 福岡県 : 51
- 佐賀県 : 7
- 長崎県 : 17
- 熊本県 : 13
- 大分県 : 11
- 宮崎県 : 9
- 鹿児島県 : 20
- 沖縄県 : 13

近畿 : 497

- 大阪府 : 242
- 兵庫県 : 137
- 京都府 : 50
- 奈良県 : 19
- 滋賀県 : 31
- 和歌山県 : 18

四国 : 31

- 愛媛県 : 9
- 高知県 : 9
- 香川県 : 11
- 徳島県 : 2

東海 : 677

- 静岡県 : 159
- 愛知県 : 378
- 三重県 : 68
- 岐阜県 : 72

キャミック・テルコム

画像診断サービスを行う 動物健診センター

- 2005年に日本初のMRI・CTによる画像検査専門の動物健診センターとして開業
- 開業後約19年を経過し、
 - 首都圏3か所に拠点を展開
 - 関東の一次病院からの依頼を中心に年間6,500件以上、累計65,000件の検査実績
- 動物にとって、より安全・より低ストレスな、撮像技術等を使用した検査

開業後19年での豊富な実績



関東の一次病院からの依頼を中心に
年間6,500件以上
累計65,000件

首都圏3か所に拠点を展開



城南

東京都世田谷区



ひがし東京

東京都江戸川区



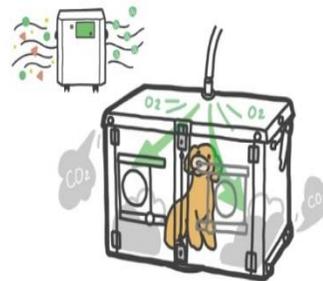
城北

埼玉県さいたま市

ペット用酸素ハウスの レンタル・販売

- ケージに酸素を満たして酸素を吸入する、**動物のための酸素ハウス**事業を展開
- **全国の動物病院からの紹介**を受け、**ご家庭へのレンタル**により
ペットの健康をサポート
- **2024年1月、農水省**から**第二種動物用医療機器製造販売業許可**を取得

酸素 ハウス



- 高濃度の酸素をつくり出す**酸素濃縮器**と、**酸素を溜めるケージ**の組み合わせ

全国展開

- 全国の直営営業所：**4か所**
- 「酸素ハウス」代理店数：**27か所**

他、動物病院に、レンタル品を預託品として在庫を置き、退院時にレンタルのご紹介も実施

今後

- **第二種動物用医療機器製造販売業許可**を受け、
今後は、**酸素濃縮器の医療機器承認**を含め
新たに動物用医療機器を開発していく計画

1. 会社概要
2. 事業概要
- 3. 業績・財務概要**
4. 市場環境
5. 成長戦略
6. リスク情報

2024年3月期 決算概要

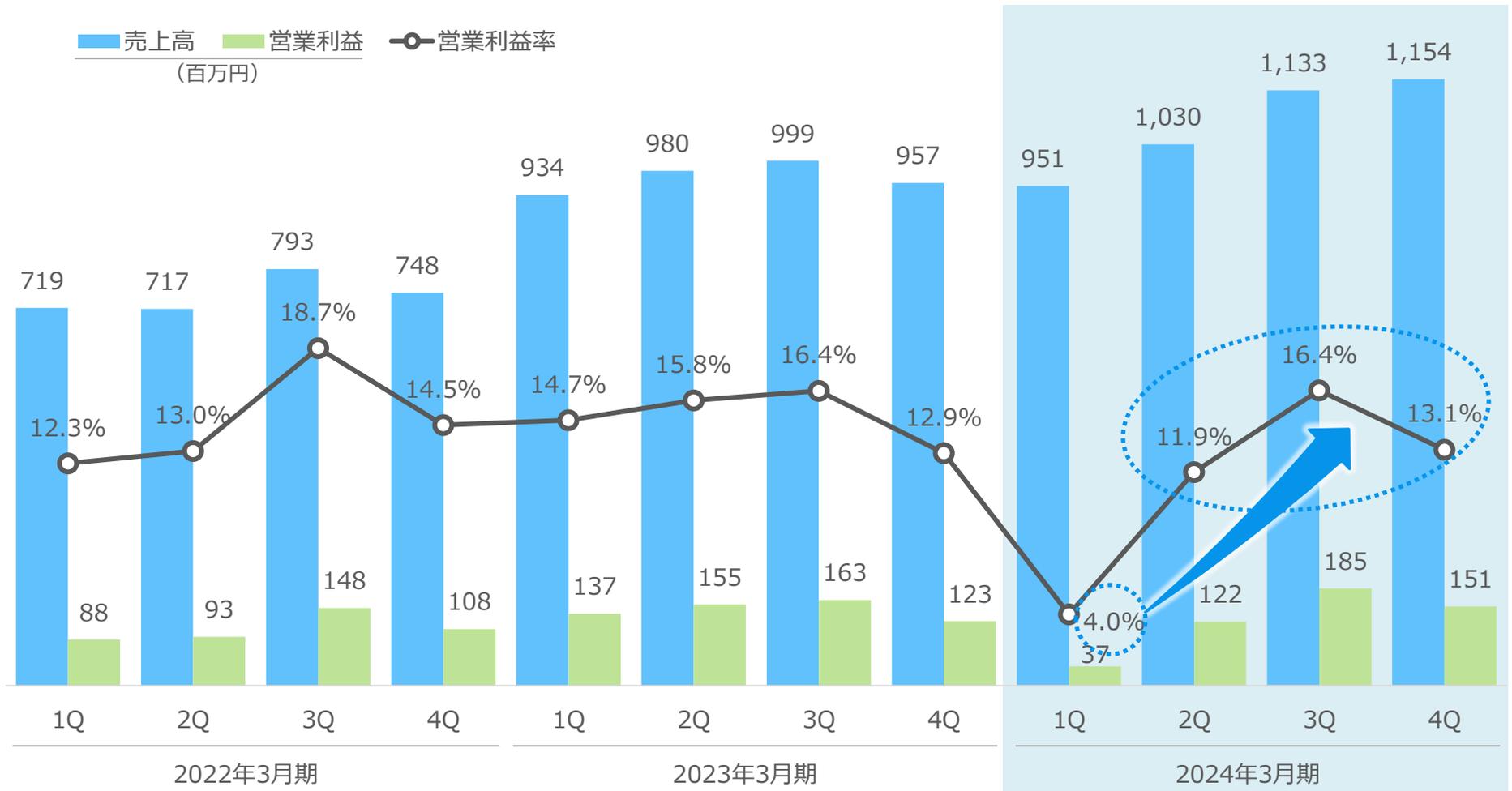
■ 売上高は過去最高を更新するものの、大阪病院開設に伴う費用増加の影響もあり減益

(百万円)	2023/3期		2024/3期				
	実績	構成比	実績	構成比	前年比		通期計画
売上高	3,872	100%	4,270	100%	+397	+10.3%	4,140
二次診療サービス	2,594	67.0%	2,917	68.3%	+323	+12.5%	-
画像診断サービス	472	12.2%	539	12.6%	+66	+14.1%	-
健康管理機器レンタル・ 販売サービス	774	20.0%	806	18.9%	+31	+4.0%	-
売上原価	2,430	62.7%	2,805	65.7%	+375	+15.5%	-
販売費・一般管理費	862	22.3%	967	22.7%	+105	+12.2%	-
営業利益	580	15.0%	496	11.6%	▲83	▲14.4%	555
経常利益	534	13.8%	489	11.5%	▲44	▲8.3%	565
親会社株式に帰属する 当期純利益	380	9.8%	337	7.9%	▲43	▲11.4%	385
1株当たり 当期純利益	156.3円	-	123.0円	-	▲33.3円	▲21.3%	140.5円

注：初診件数はP25に記載

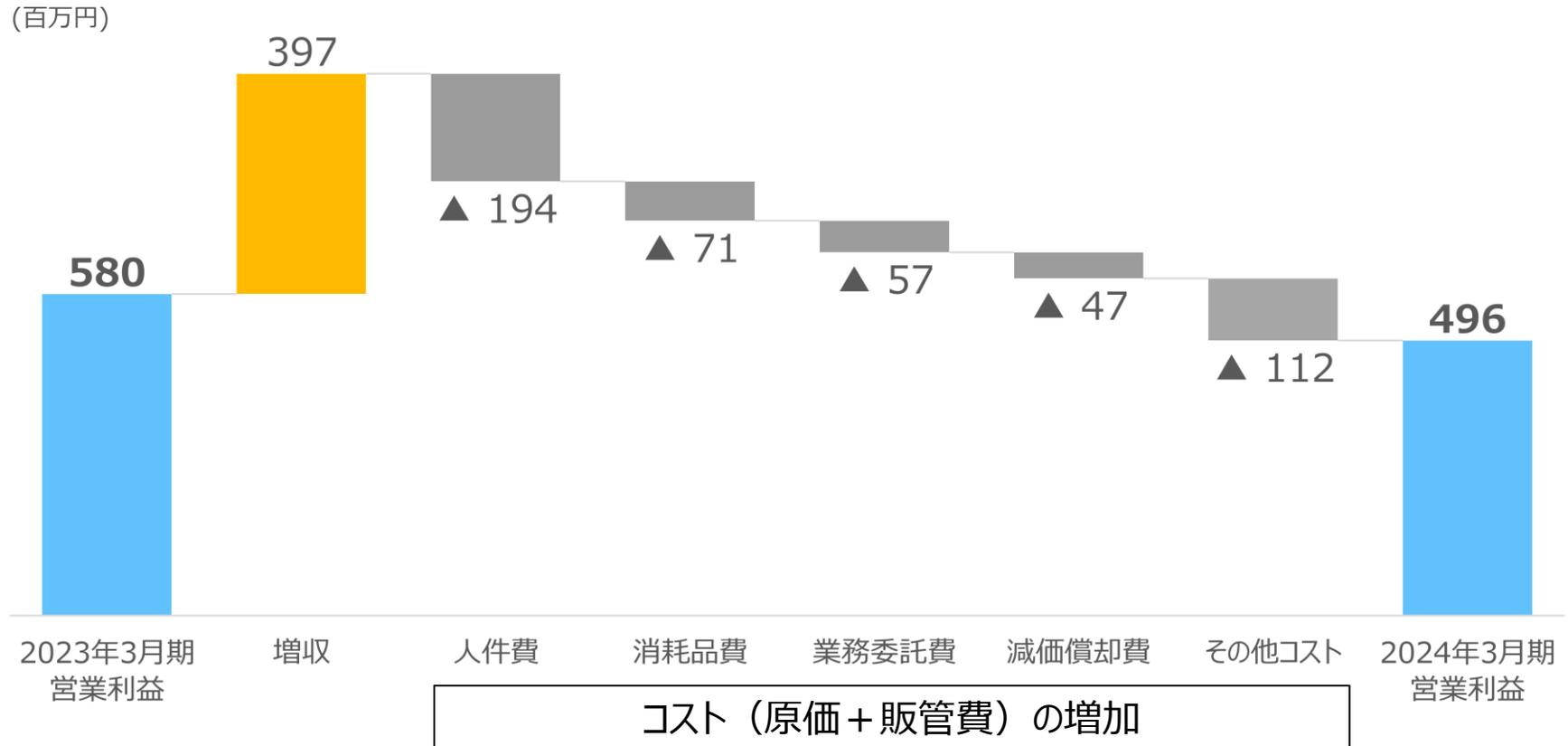
四半期決算 業績推移

- 2024年3月期第1四半期の大阪開院時に営業利益率は一時的に低下
- 以降は売上高、営業利益とも順調に推移



営業利益増減要因

- 増収も、人件費、消耗品費等のコスト（原価＋販管費）の増加により減益



バランスシート状況

- 大阪病院開院及び川崎本院放射線治療器等の取得に伴いバランスシートは拡大
- 自己資本比率は43.2%から43.5%へ改善

(百万円)	2023/3期	2024/3期	前期末比
流動資産	2,396	1,777	▲619
現預金	1,916	1,337	▲578
売掛金	263	297	+33
商品	95	74	▲20
固定資産	6,182	6,992	+810
有形固定資産	5,333	6,151	+818
無形固定資産	608	548	▲60
総資産	8,578	8,770	+191
負債	4,872	4,958	+85
有利子負債	3,975	3,856	▲119
純資産（株主資本）	3,706	3,811	+105
自己株式	▲171	▲410	▲238
負債純資産合計	8,578	8,770	+191

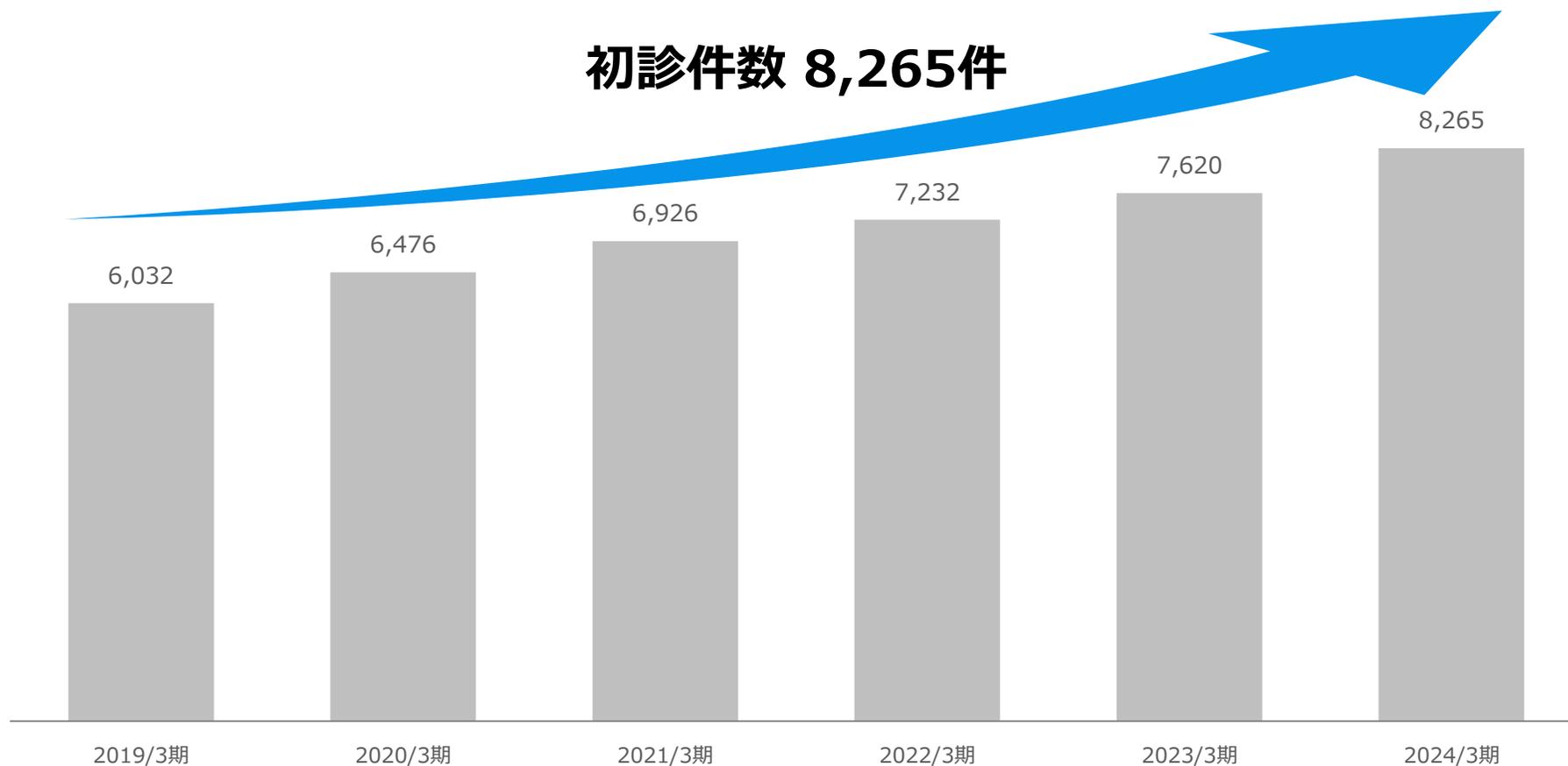
キャッシュフローの状況

- 投資キャッシュフローは大阪病院開院と川崎放射線治療器等の取得によるもの
- 財務キャッシュフローは長期借入金の返済と、自己株式取得によるもの

(百万円)	2023/3期	2024/3期	前年比	主な要因
営業CF	810	899	+88	
税金等調整前 当期純利益	533	491	▲42	・ 営業利益減益
減価償却費	391	444	+52	・ 大阪開院に伴う減価償却増
投資CF	▲784	▲985	▲201	
有形固定資産取得	▲728	▲1,041	▲312	・ 大阪開院、川崎放射線治療器等取得に伴う有形固定資産取得
FCF (営業CF+投資CF)	26	▲86	▲112	
財務CF	820	▲392	▲1,212	・ 長期借入返済、自己株式取得
現金同等物の期末残高	1,816	1,337	▲478	

事業KPI：初診件数（紹介数）の推移

- 大阪病院の開院及び既存病院の成長により、初診件数は大きく増加し過去最高

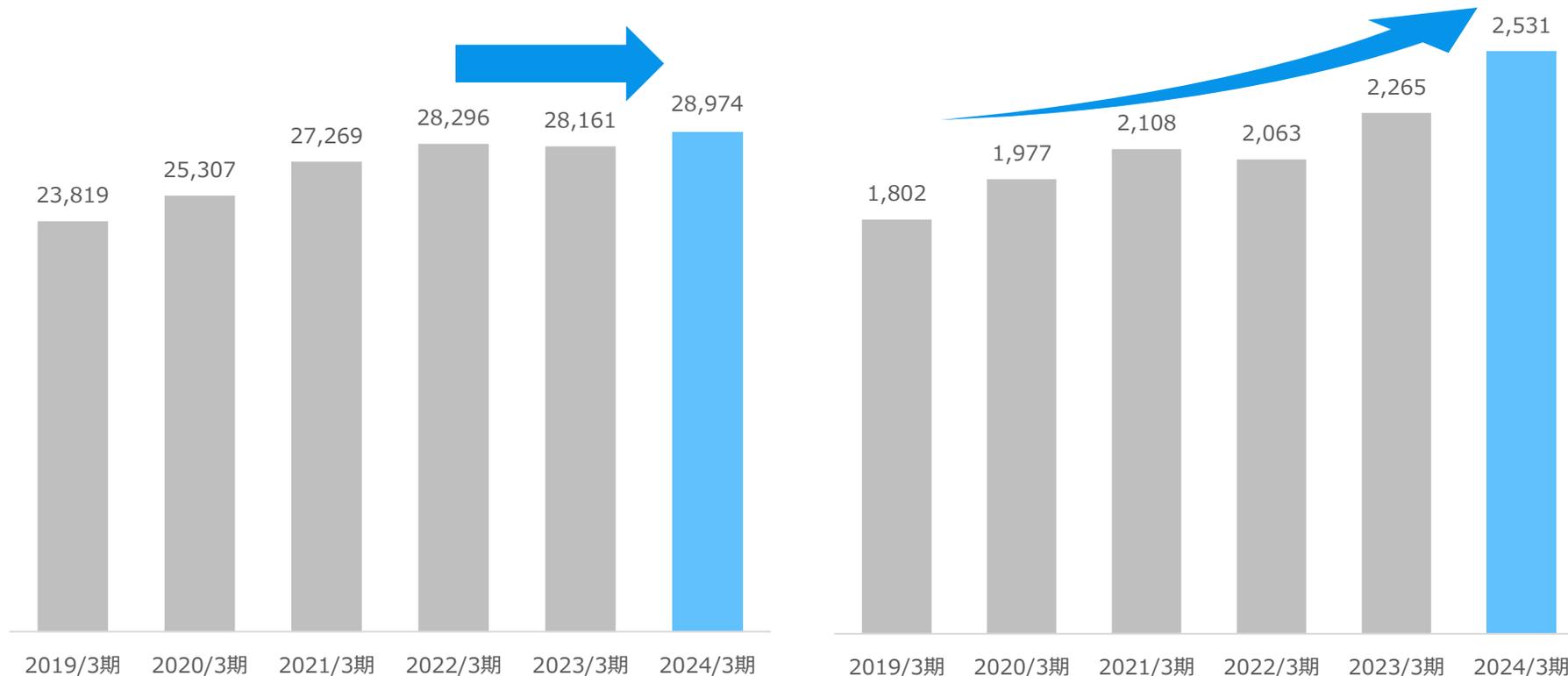


事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数は再診の不要な早期受診の増加もあり、+2.9%の微増であるが過去最高
- 一方で治療の必要な症例の増加もあり、手術件数は+11.7%と大幅に伸長し過去最高

総診療件数の推移

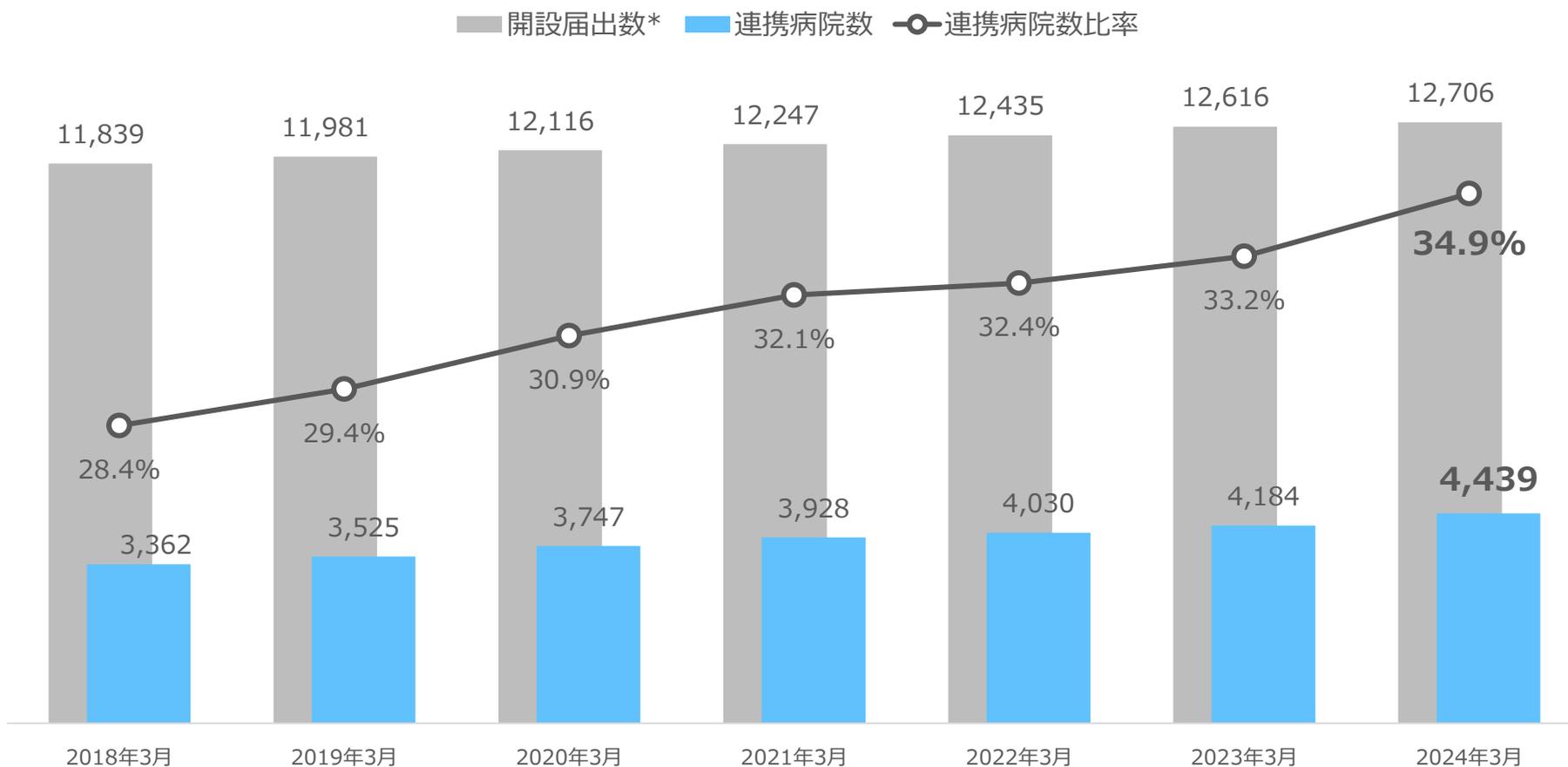
手術件数の推移



注：総診療件数は初診と再診の合計数

連携病院数推移：全国4,439施設へ増加

- 2024年3月の連携病院数は+255件（うち近畿地区+208件）と大幅に増加
- 連携病院数比率は34.9%に上昇



*開設届出数は農林水産省（令和5年12月末時点のその他小動物診療施設の件数）

新設病院の立ち上がり状況

- 大阪病院は当初計画通り、開院から12ヶ月で黒字化達成

	設備投資額	黒字までの当初計画	結果
1 名古屋病院 (2011年開院)	6億円	24ヶ月	33ヶ月
2 東京病院 (2018年開院)	14億円	9ヶ月	3ヶ月
3 大阪病院 (2023年開院)	22億円	12ヶ月	12ヶ月

2025年3月期の見通し

- 一次診療施設との連携強化により初診数増加を図ることで売上高は増収見込み
- 増収効果により営業利益は大きく改善見込み

(百万円)	2024/3期		2025/3期			
	実績	構成比	通期計画	構成比	前年比	
売上高	4,270	100.0%	4,820	100.0%	+549	+12.9%
営業利益	496	11.6%	625	13.0%	+128	+25.8%
経常利益	489	11.5%	625	13.0%	+135	+27.6%
親会社株主帰属 当期純利益	337	7.9%	440	9.1%	+102	+30.5%

株主還元方針 配当の状況

- 2024年3月期初配当を実施
- 2025年3月期の期末配当は25円を計画

今後の利益還元策について

配当性向10～20%を基本方針

事業拡大のための投資と
資本効率向上の最適なバランスを考慮

自己株式の取得

1株当たりの株主価値と
ROEの向上を目的として機動的に実施

配当予想

	2024年3月期	2025年3月期（予想）
配 当 金	初配当 20円	増配 25円
配 当 性 向	16.0%	15.3%

1. 会社概要
2. 事業概要
3. 業績・財務概要
- 4. 市場環境**
5. 成長戦略
6. リスク情報

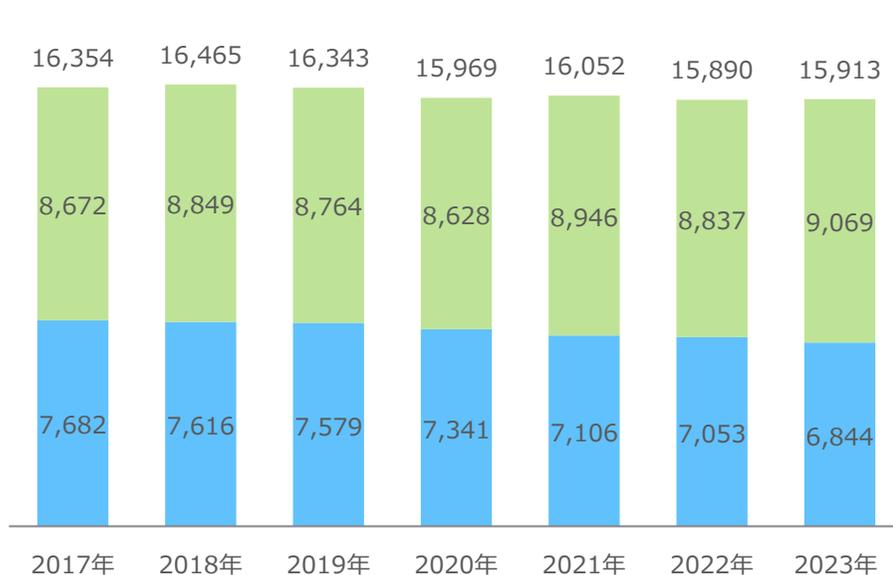
市場規模と競合環境

業界環境：犬猫飼育頭数は横ばい傾向が続く

- 2023年の犬猫飼育頭数は横ばい。新規犬猫飼育頭数はコロナ禍によるブームが一段落

犬猫飼育頭数

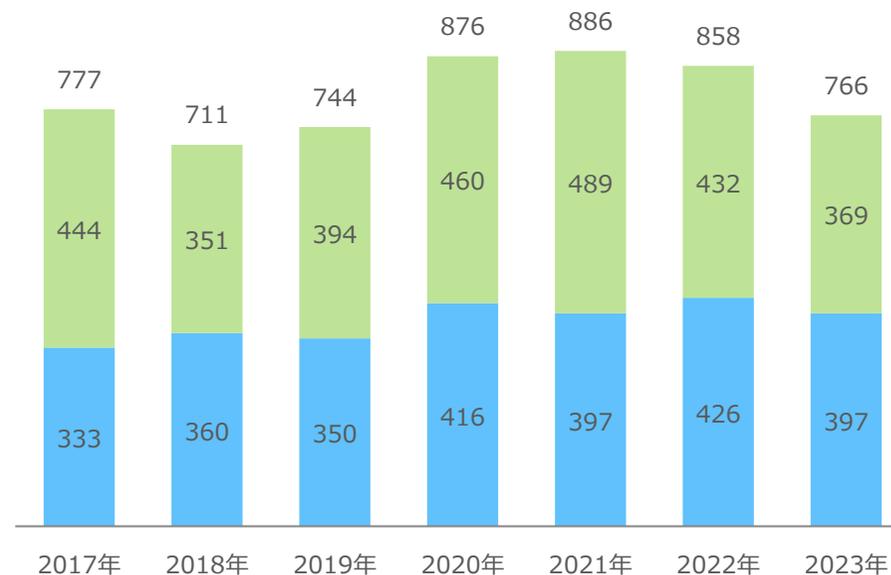
■ 犬飼育頭数 ■ 猫飼育頭数（千頭）



新規犬猫飼育頭数*

*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含む）から飼い始めた人を新規飼育者とし、新規飼育者に飼われ始めた犬猫の頭数

■ 新規犬飼育頭数 ■ 新規猫飼育頭数（千頭）



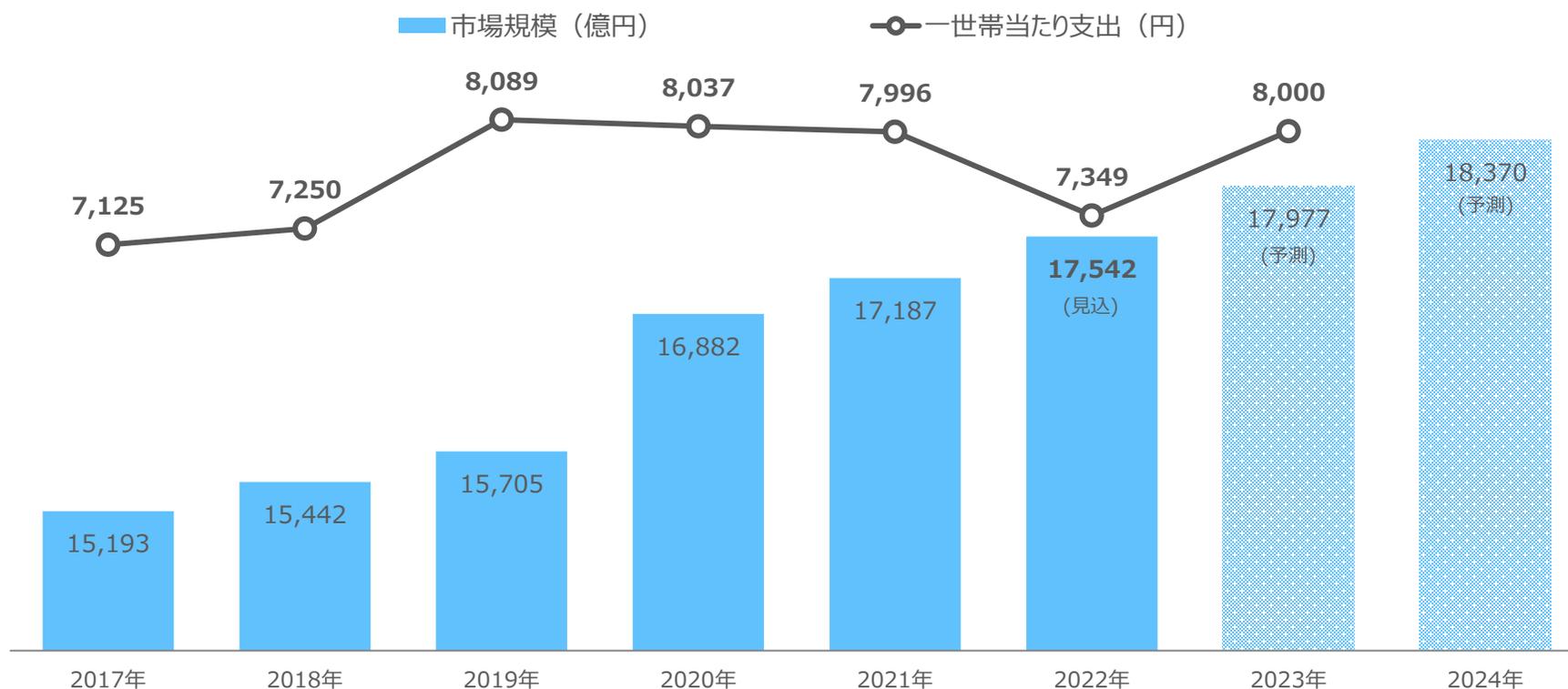
出所：ペットフード協会「令和5年 全国犬猫飼育実態調査」

業界環境：順調に拡大するペット市場

- 人口減少や少子高齢化が懸念される一方、ペットの家族化で動物医療に対する多様化・高度化要請は増加
- ペット医療やペット保険等ペットビジネスの付加価値化、裾野が拡大し、ペット関連総市場規模は年々拡大傾向

ペット関連総市場規模*と一世帯当たり動物病院支出額

*ペット関連総市場：ペットビジネスをフード市場、用品市場、生体市場、その他（ペット周辺サービス市場）として捉えた際のペットビジネス市場全体



出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2022年版」、総務省「家計調査」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

当社の特徴と競合との比較

病院の区分	 JARMeC	獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	年中無休	土日祝・夏季・年末年始休業	365日営業が難しい
診療科数	12	10~19	1
競合の状況	以下に記載	学生教育・研究に重点 急患対応が難しい など	総合的な対応が難しい 大型投資が難しい など

JARMeC が提供する高品質なサービス

高度医療機器

獣医科大学病院と同等以上の設備を揃える。

柔軟な受入対応

年中無休、当日含む早期の受入を目指す。
※予約の速さ・簡便さには定評がある。

チームによる診療体制

専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。
必要に応じて複数の診療科が協力して対応。

病院における症例紹介の獲得

- 新規のお客様獲得にむけて営業活動を実施

症例紹介の獲得活動

地域の動物病院への宣伝活動

- ・ 院内セミナー・勉強会開催
- ・ 施設見学会開催
- ・ 症例の学会発表 

症例紹介

当社紹介の理由

- ① 獣医師・看護師の質が高い
- ② 医療設備が優れている
- ③ 診断力・治療技術が高い
- ④ 治療情報の共有・報告が丁寧
- ⑤ 飼い主の満足度が高い
- ⑥ 緊急時の受入れが迅速

※当社アンケート調べ

1. 会社概要
2. 事業概要
3. 業績・財務概要
4. 市場環境
- 5. 成長戦略**
6. リスク情報

二次診療サービスの着実な成長

家族としてのペットの健康を支えることで、
飼い主とペットの健やかな暮らしに貢献していく

動物医療業界における“総合企業”としてサービスを展開

二次診療

一次診療では対処できない疾患に対して
提供する専門・高度医療サービス



新たなサービス

疾患を対象とするだけでなく、
健康を維持する(未然に防ぐ)サービス



...

JARMeCの強み

専門領域
・診療体制
(11の診療科)

高度医療機器
の保有

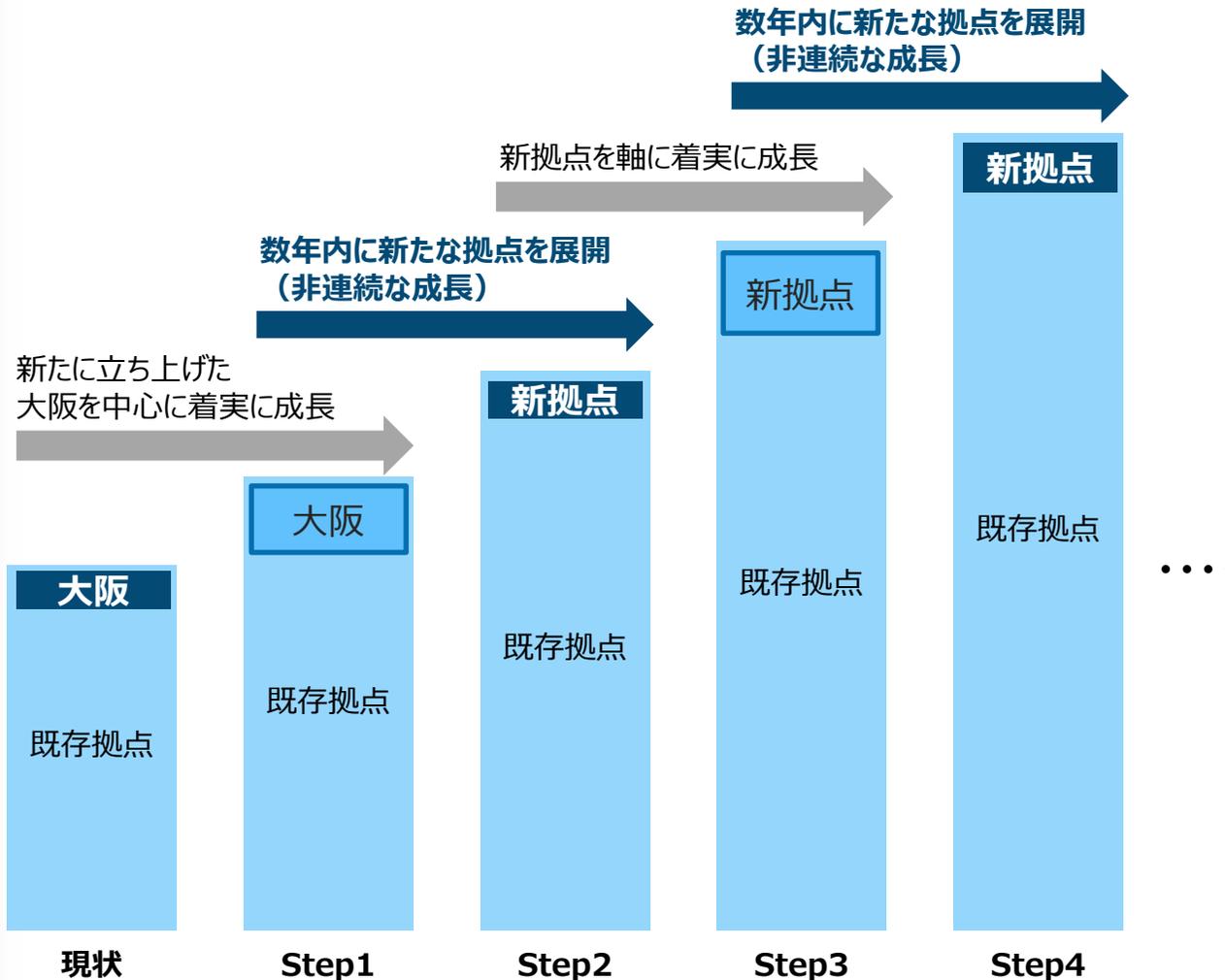
柔軟な
受け入れ対応
(年中無休・柔軟な予約)

ホスピタリティ

豊富な症例数
(知的アセット)

二次診療サービスの成長シナリオ

- 数年単位で新たな拠点を立ち上げ、「品質を確保しながら」「面の拡大」を目指す
- 同時に、各種施策により、立ち上げ拠点の収益最大化を図る



新たな拠点の立ち上げ
(面の拡大)



既存拠点の着実な成長
⇒詳細はP.44ご参照

新たな拠点の立ち上げ (面の拡大)

既存拠点の着実な成長

今後の拠点展開

- JARMeC(既存拠点)
- 獣医科大学病院



引き続き、
「全国主要都市」への拠点展開
を継続

より多くの飼い主様にとって、
**近隣でより早く、
高度医療を受けられる環境**
を整備

※ 新病院の開設については、
これまでの4病院の開院を手掛けてきた当社の
ノウハウを生かした早期立ち上げ

新たな拠点の立ち上げ
(面の拡大)

既存拠点の着実な成長

各拠点の現状

川崎

各拠点開設以来、
堅調に業績成長を維持

東京

近年、
順調に紹介依頼を頂く一方で、
十分な受け入れが難しくなってきた状況

名古屋

今後に向けては、
受け入れ体制拡大が必要

大阪

2023年に立ち上げ
着実に診療数を増やし、連携病院からの
信頼と認知度・知名度を獲得している
(2024年5月からは放射線治療も開始)

今後の方向性

受け入れ拡大に向けた改革施策

- 1 業務効率化・生産性向上
- 2 優秀人材の確保・育成

拠点運用の安定化

北摂を中心に近畿エリアで二次診療を定着させ、
放射線治療の開始をもって、成長促進を狙う

全社を通して

- 3 医療レベルの向上
(引き続き信頼性を着実なものにする)

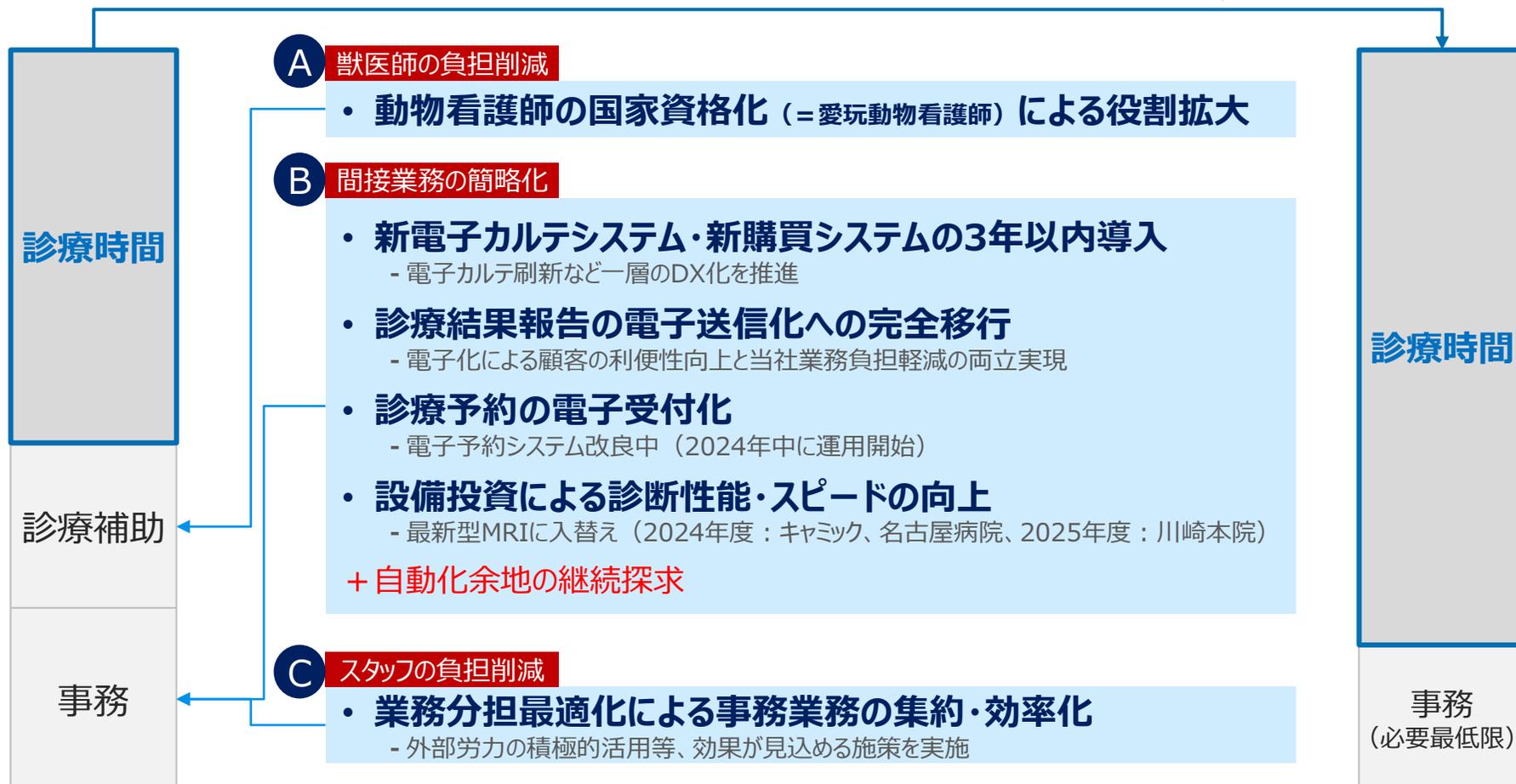
施策① 獣医師業務の効率化・生産性向上

- 獣医師1人当たりの診療時間の最大化に向けて、獣医師の負担削減・業務効率化を実施

獣医師の業務工数

獣医師の診療時間の最大化 (= 診療数の増加)

今後



施策② 優秀人材の確保・育成・配置

■ 豊富な症例数、高度な専門性が身につく環境を武器に、採用と育成を体系的に実施

人材の確保

中途採用の強化

リファラル採用の強化

- 体系的な人事施策により採用を加速

獣医師コミュニティへの働きかけ

- 積極的な学会活動を通じた関係構築

新卒採用の強化

大学説明会・求人案内の増加

- 母集団増に向け、訪問大学数を増加

採用プログラムの体系化

- 獣医師自身が病院紹介～キャリア相談まで行い、学生に寄り添うプログラム設計

人材の育成

幅広く知識が身につく環境整備

全科獣医師研修

- ローテーションプログラムによって幅広く獣医療全体を研修

専科獣医師研修

- 専門診療科で症例実績を蓄積
- 豊富な指導陣の元で多くの症例を経験 + 積極的な学会活動を通じ、専門性を磨き、成長できる環境

人材の配置

最適配置による早期戦力化

安定した診療体制の維持

- 4病院で最適な配置調整

- 豊富な指導陣の存在
- 質的・量的に豊富な経験が可能

の2点は、当社の魅力であり、人材確保活動全体を通し訴求

施策③ 医療レベルの向上

- 診療科ごと・施設ごとの成長ではなく、今後は、**医療レベルのさらなる向上**のため、**病院・グループ体での取組**を重視

全社で重視するJARMeCの基盤方針/姿勢



施設横断的な診療科の
連携強化



設備投資による
検査・治療法の充実



各種専門資格の取得奨励
・支援



学会・学術活動のさらなる
実績取得

医療レベル
の向上

飼い主からの
着実な信頼

関東・東京合同地区獣医師大会にて 学会長賞・奨励賞を **8年受賞**

2013年度	胸腺腫の猫に見られた剥脱性皮膚炎の1例	
2014年度	肺吸虫感染の犬の1例	
2015年度	腎瘻チューブ設置後に腎切開による結石摘出を行った犬の1例	
2016年度	プレドニゾンが奏効した猫消化管好酸球性硬化性線維増殖症の3例	
2017年度	ガイドワイヤーの使用により尿路確保が可能となった尿道異常の4例	
2018年度	外科的治療により長期生存している肝外胆管癌の猫の2例 硬化性胆管炎が疑われた犬の1例	2題受賞
2019年度	前腕の広範囲皮膚欠損創に遊離全層植皮術を実施した犬の2例 肝管空腸吻合を行った肝外胆管閉塞の猫の2例	2題受賞
	巨大な犬の原発性肺腫瘍に対する肋間開胸と横切開旋回開胸の比較	中部地区受賞
2020年度～	コロナ禍による行動制限の影響あり	
2023年度	稀な発作徴候を示し脳波検査によりてんかんと診断した犬の2例	

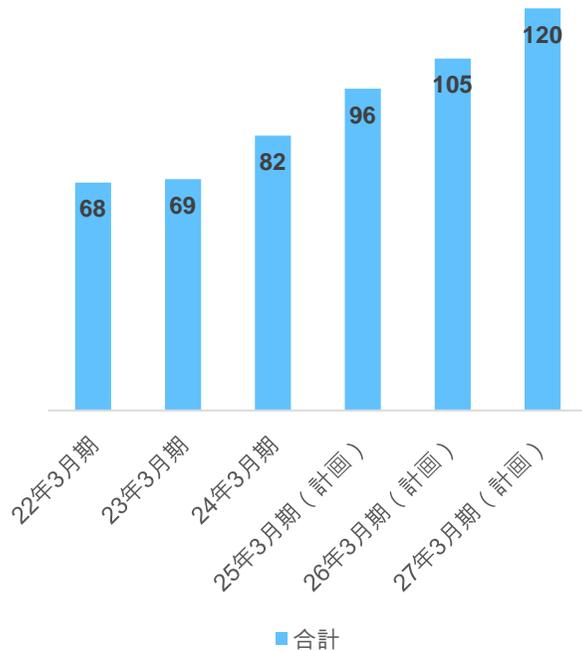
売上・利益の成長目標

中長期成長目標（売上高）

- 二次診療事業の**安定的な成長を目指す**
- 安定的な成長の基礎となる**獣医師の確保・初診数の向上を目指す**

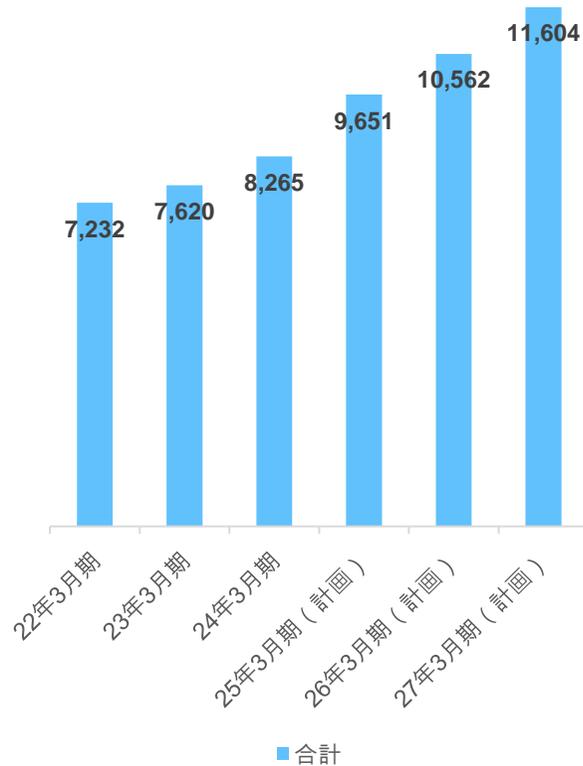
① 獣医師数

(人)



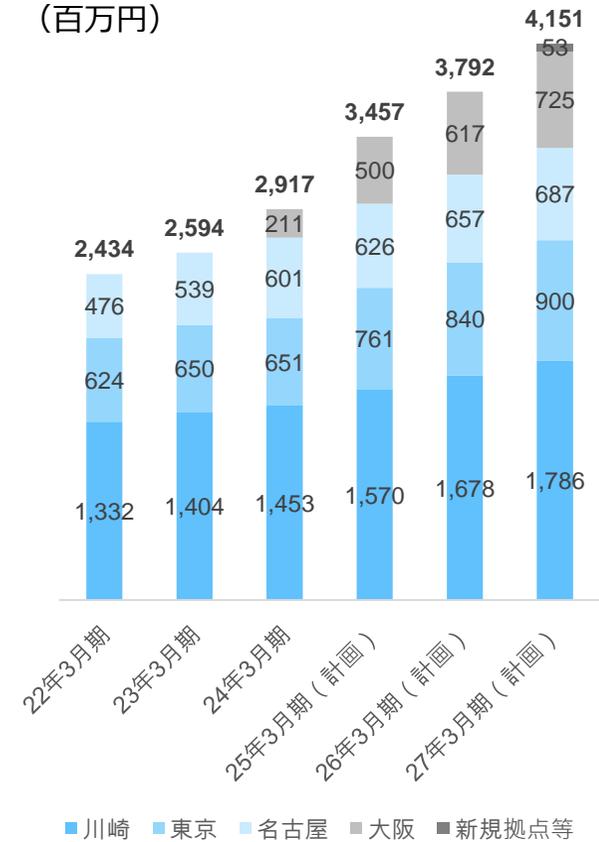
② 初診数

(件数)



③ 病院別売上高（二次診療）

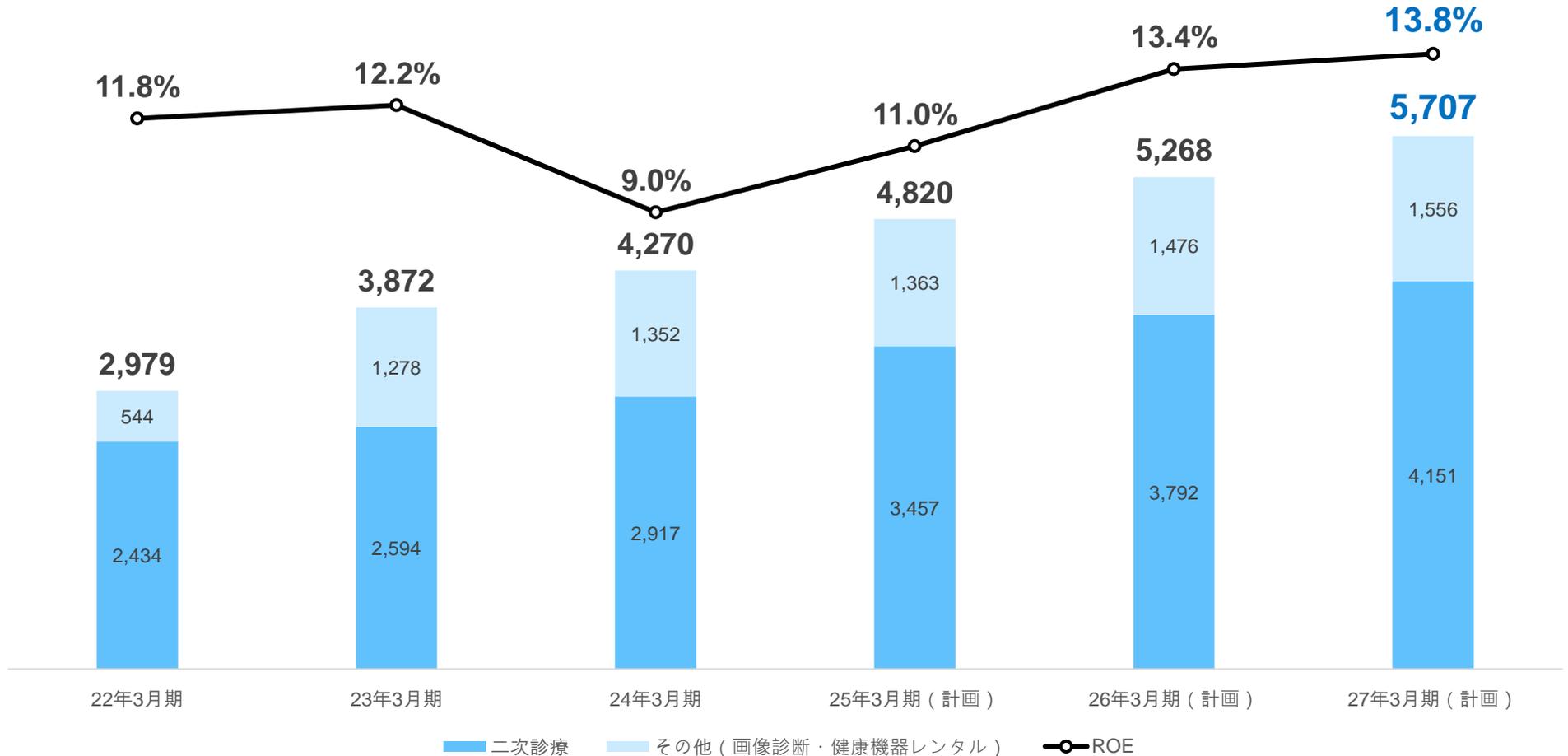
(百万円)



中長期成長目標 (KGI)

- 既存ビジネスの成長により**27年3月期は売上高57億円の規模**（年平均成長10.1%）を目指す
- また、資本コストを意識した経営と経営資源の配分見直しにより**ROE12%以上を目指す**

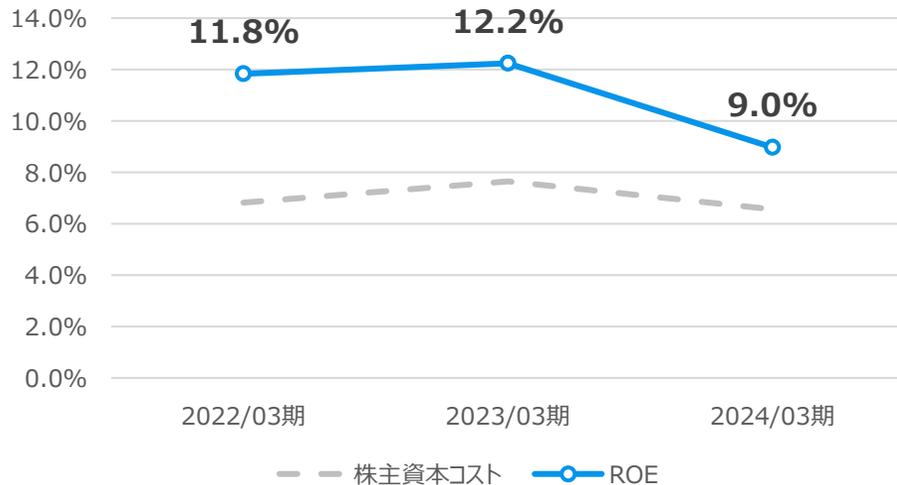
(百万円)



資本コストを意識した経営の実現に向けて

- 当社の株主資本コストは、流動性・規模等の個別リスクを鑑みて**概ね10%程度**と認識
- ROEは、22/3期11.8%、23/3期12.2%、24/3期9.0%と、**株主資本コストを下回っている**
- 24/3期は大阪病院の開院に伴い一時的にROEが低下しているが、安定稼働に伴い23/3期の**ROE12%までの改善余地**はあるものと推察

株主資本コスト（実績）とROE



*1: 株主資本コストは期末時点の1÷PERで算定（出典：(株)WARC調べ）

当社の考える株主資本コスト

リスクフリーレート	ベータ(β)感応度	リスクプレミアム等	株主資本コスト
無リスク金利 ※10年国債利回りをベースに設定	+	当社固有のリスク ×	= 10%
		株式投資に期待する超過収益率 + 流動性・規模等の個別リスクを加味	

安定的なROE12%の達成に向けて

収益性の向上

各病院の安定稼働に向けた取組と放射線診療等のより高付加価値のサービス提供を通じて収益性の向上を図る

資本効率の向上

外部借入による調達と新規拠点の開設又は既存拠点の増床により資本効率の向上を図る

新規投資

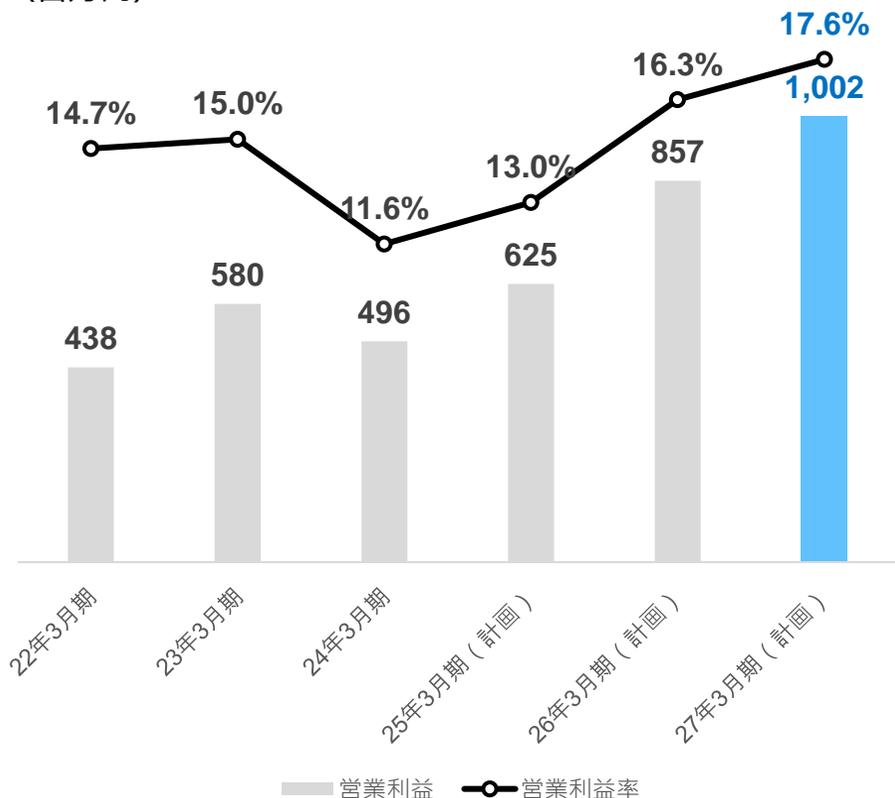
既存の二次診療事業のみならず動物医療業界における“総合企業”としてサービスを展開できるように取組を行う

ROE目標の達成に向けた取組み

- 病院の稼働率の上昇を通じて営業利益率の向上を図る
- 外部借入を活用し、資本効率の向上を図る

営業利益率

(百万円)



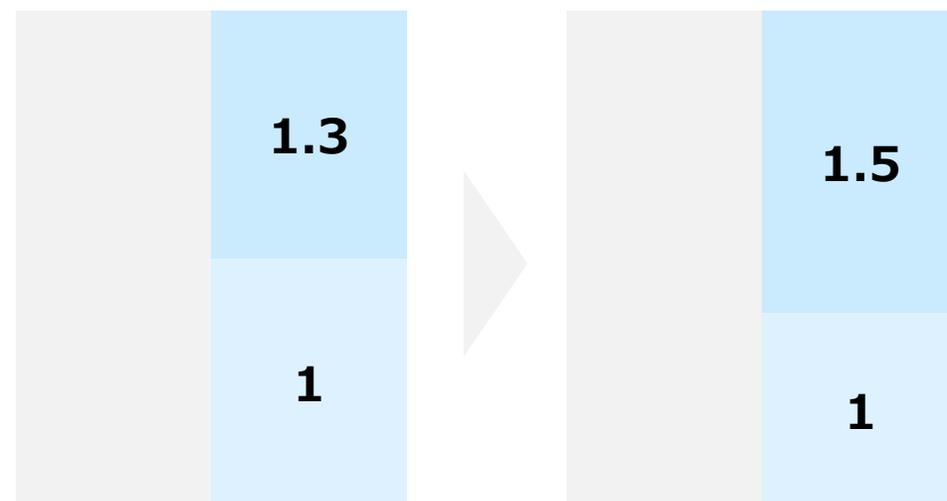
財務レバレッジ

2024年3月期

2027年3月期

財務レバレッジ 2.3

財務レバレッジ 2.5

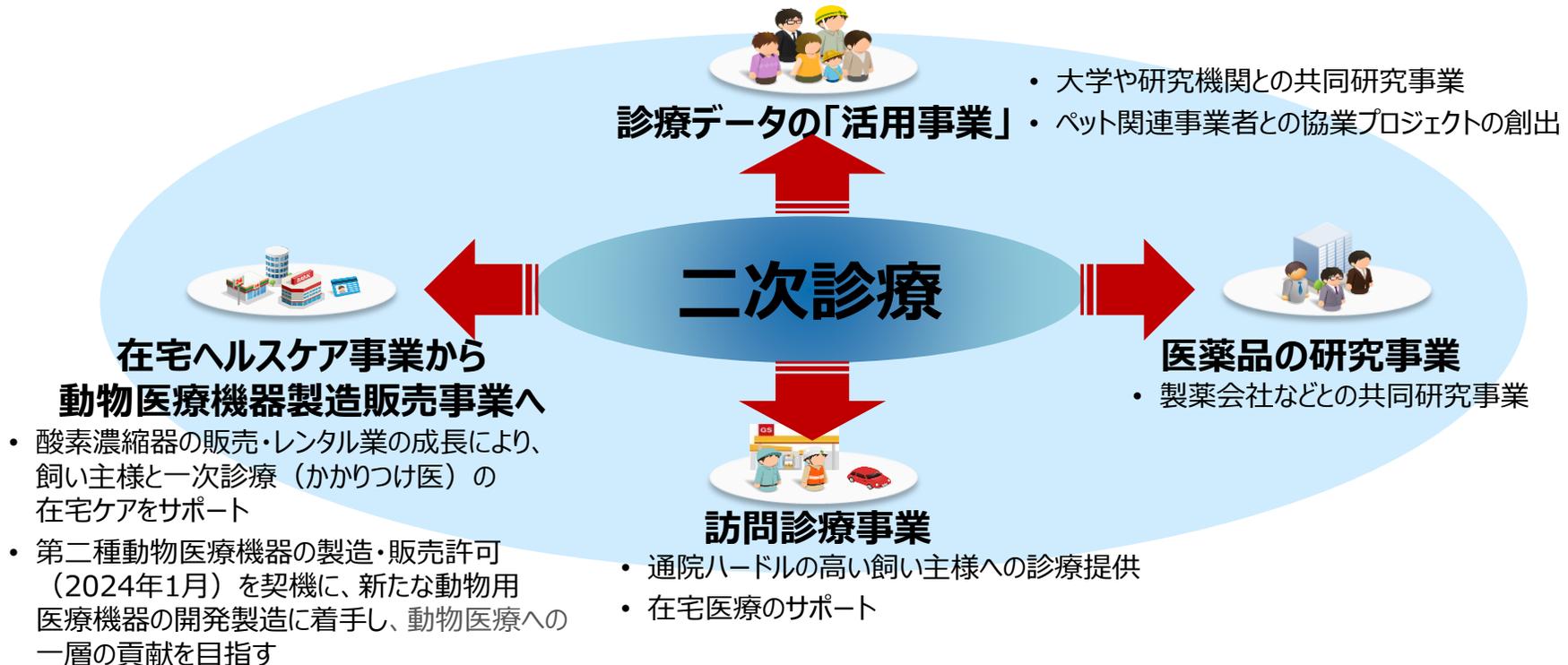


財務健全性を担保可能な水準で外部借入を行い、財務レバレッジの引き上げ

新たなサービスによる成長

事業の多角化・協業加速

- 当社グループは引き続き二次診療サービスを事業の中心とする
- 今後、新たに動物用の医療機器を製造販売することで、飼い主様の在宅ケアの質を高め、かかりつけ医と一体となって動物医療に貢献していく
- また、動物医療を受けられない飼い主様向けに、訪問診療の開始を検討
- その他、診療データ活用・医薬品研究事業についても検討



JARMeCグループとして、動物医療の『総合企業』を目指します

1. 会社概要
2. 事業概要
3. 業績・財務概要
4. 市場環境
5. 成長戦略
- 6. リスク情報**

認識するリスク

リスク対応策、顕在化する可能性等

事業環境の変化（飼育動物の減少）

飼育動物の頭数は、人口動態、景気動向等の影響を受けると考えられ、一部の調査では近年は減少傾向にあります。飼育頭数が急激に減少した場合には当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

顕在化する可能性：中 影響度：高 時期：中長期

動物の長寿化・高齢化により疾病が多様化していること、ペット保険の加入率が増加傾向にあることから、当社グループが手掛ける「動物の高度医療」に対するニーズは高まっていると認識しております。このようなニーズに応えるべく、拠点の拡大、人材の育成、業務領域の拡大等を図ってまいります。

競合の激化

当社グループの属する動物の二次診療施設の増加により競争が激化し、診療数の減少が進んだ場合等には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

顕在化する可能性：低 影響度：中 時期：中長期

動物の二次診療施設は、人的資源および多額の資金を必要とすることから参入障壁は比較的高いと思われます。当社グループは多くの専門診療科を有する総合診療施設を志向しており、複数の専門診療科の連携によって患者動物に最適な診療サービスを提供することで、他の二次診療施設との差別化を図ってまいります。

（注）認識するリスクについて、有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクにつきましては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

認識するリスクと対応策（2）

認識するリスク

診療サービスの過誤

当社グループは、提供する動物医療サービスに過誤が生じ、発生した損失に対する責任を追究されるリスクがあります。さらにサービスに過誤が生じたことにより社会的評価が低下し、当社グループのサービスに対するニーズが低下するリスクがあります。このような場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

人材の確保と育成

当社グループにおいて専門性の高い獣医師をはじめとする優秀な人材の確保、育成及び定着は、今後の業容拡大のための重要課題であります。必要とする人材を採用できない場合、また採用、育成した人材が当社の事業に寄与しなかった場合、あるいは社外に流出した場合には、当社グループの事業展開及び業績に影響を与える可能性があります。

リスク対応策、顕在化する可能性等

顕在化する可能性：低 影響度：中 時期：中長期

当社グループは、提供する動物医療サービスの品質管理に細心の注意を払っております。今後もサービスに携わる人材の教育に努めてまいります。

顕在化する可能性：中 影響度：中 時期：中長期

当社グループは、給与・賞与支給水準の向上、福利厚生の充実などの待遇改善に努めてまいります。また、入社する職員に対する研修や、リーダー層となる中堅職員への幹部教育を通じ、将来を担う優秀な人材の育成に努め、社内研修・カンファレンス、症例報告会、学会発表の指導等を通じて役職員間のコミュニケーションを図ることで、定着率の向上を図ってまいります。

(注) 認識するリスクについて、有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクにつきましては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

Appendix

Appendix (1 / 3) 業績推移

(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
売上高	2,734	2,847	2,979	3,872	4,270
JARMeC	2,243	2,358	2,466	2,625	2,924
キャミック	490	491	514	475	548
テルコム	-	-	-	774	806
連結相殺消去	-	▲1	▲1	▲2	▲8
営業利益	430	405	439	580	496
(営業利益率)	(15.8%)	(14.2%)	(14.7%)	(15.0%)	(11.6%)
経常利益	450	410	438	534	489
親会社株主に 帰属する当期純利益	312	285	286	380	337

Appendix (2/3) コスト構造

(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
営業費用 (売上原価+販管費)	2,303	2,442	2,539	3,292	3,773
固定費	1,462	1,577	1,660	2,137	2,406
人件費	1,181	1,295	1,354	1,636	1,848
減価償却費 (のれん償却費含む)	217	220	241	411	464
その他(固定費)	62	62	64	88	92
変動費	841	864	879	1,155	1,367
業務委託費	174	186	197	225	288
その他(変動費)	666	678	681	929	1,078

Appendix (3 / 3) エリア別連携病院数

(件)	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
北海道	63	63	65	64	62
東北	145	148	147	151	152
関東	2,349	2,473	2,522	2,621	2,646
甲信越	112	116	120	124	125
北陸	42	44	45	46	47
東海	531	577	622	656	677
近畿	272	273	276	289	497
中国	63	63	62	61	61
四国	27	27	28	29	31
九州・沖縄	143	144	143	143	141
合計	3,747	3,928	4,030	4,184	4,439

- 本資料は、当社の事業内容及び事業戦略に関する情報の提供を目的とするものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘する目的としたものではありません。
- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。
- 従いまして、実際の業績が本資料に掲載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを予めご了承ください。なお、業績予想等に変更を与える事象が発生した際には、速やかに適時開示を行っていく方針です。
- 「事業計画及び成長可能性に関する事項」の更新は、今後、本決算発表後に開示を行う予定です。次回の更新は、**2025年6月**を予定しております。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター
管理部 IR担当
044-850-1320
e-mail : ir@jarmec.jp